

## 2026年 3月度 売上速報

## ■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	107.1
阪神梅田本店	119.2
支店計	101.5
全店計	106.5

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

## ○ 全店の概況

- ・ 比較的安定した気温が続き、春物ファッションの売上が好調に推移。また、ホワイトデーなどのモチベーション商戦をはじめ、食品も堅調な売上で、都心店、郊外店、全店いずれの合計も前年の売上高を上回った。中でも、リモデルに伴う大型改装が中旬に完了した阪急本店と、阪神梅田本店が前年の売上高に対して大きく伸長し全店を牽引した。
- ・ 国内顧客の売上高は、前年に対して約1割増と好調。またインバウンドについては、中国からの観光客の売上高は前年の約6割減と厳しい状況が続くものの、中国を含む海外VIPは約4割増と前年を大きく上回り、免税売上高全体として5ヵ月ぶりに前年を上回った。
- ・ 阪神梅田本店は、ファッション・ライフスタイルカテゴリーが前年の売上高に対して約3割増と引き続き高い伸びを示し、食品の売上高も約1割増と前年を上回った。また、改装後の大型催事の再開により、全体の売上高は約2割増と前年を大きく上回った。川西阪急スクエアも、改装効果により前年の売上高に対して約3割増と高伸。

## ○ 阪急本店の概況

- ・ 6階の閉鎖など全館の大型改装に伴う売場縮小の中、国内顧客の売上は前年を上回る水準で好調に推移。中旬のリニューアルオープン以降、国内顧客の売上はさらに高い伸びを示し、3月として過去最高だった前年に対し約1割増と高伸。免税売上高は前年並みの結果となり、店舗全体としても3月として過去最高の売上高となった。
- ・ 「グローバルパートメントストア」化の象徴となる5・6階『HANKYU LUXURY』が20日にオープン。ラグジュアリーの売場面積を約1.5倍に拡大するとともに世界水準の品揃え、サービス、環境を提供。オープン以降多くのお客様にご来店いただきまた、ゆったりと買い物をお楽しみいただくことで客単価が向上し、強化したビッグメゾンのインストア旗艦店が、特に高い売上の伸びを示した。結果、100万円以上の高額品の売上高は前年に対して約6割増となり、約2割増となったラグジュアリー全体の売上高にも大きく寄与。
- ・ ラグジュアリー以外においても、月間を通して春物ファッションが好調。ジャケットやパンツ、セーターなどいずれも前年の売上高に対し2けたの伸びでモードファッションは前年の約3割増、コンテンポラリーファッションは約2割増とともに大きく売上を伸ばした。また、アクセサリーでは引き続き「ライダールネズ」の好調に加え、大学入学や就職のお祝いをお求めのお客様も多く、前年の売上高に対して約4割増と高伸。

## ※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2024年度	2025年度											
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
阪急本店	96.4	92.2	85.2	81.8	86.6	103.1	99.2	104.9	100.7	93.2	100.7	95.9	107.1
阪神梅田本店	92.1	95.4	102.8	109.2	106.6	118.3	134.0	112.7	122.9	107.4	136.5	126.3	119.2
支店計	97.7	95.2	95.5	92.8	94.3	104.1	99.4	102.6	102.8	97.1	101.4	99.0	101.5
全店計	96.4	93.5	90.2	87.9	91.2	105.1	103.2	104.9	103.6	96.0	104.1	99.8	106.5

## ■ 食品事業

食品スーパー計	売上高前年比(%)
既存店計	98.6

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

<本件に関するお問い合わせ先>

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181